Jan 5
1887
no. 46

驛遞局認可

明治二十年一月五日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

第四十六號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 46. JANUARY 5TH, 1887.

EDITORIAL: Thoughts on the New Year; Female Teacher and Rights of Woman.
LEADING ARTICLE: Mr. H. Kato's Lecture on "The Oriental Idea of Woman's Position in Life."
MISCELLANIES: On Recreation.
BIOGRAPHIES: Madam de Staël; Mrs. Eureka: I deal of womanhood; Wōyōshū's Mother.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
ADVERTISEMENT.

第四拾六號

●社説 明治二十年を迎ふ〇女權擴張の遠計
●論説 加藤弘之君男尊女卑の是非得失講演速記(三)
●叢話 遊樂の事
●佳傳 マダムデスタルの傳〇ゆりか物語〇理想佳人傳〇歐陽永叔の母
●寄書 東洋英和女學校閉校式祝文(山尾壽榮子)同演舌筆記(牛場田鶴子)同祝文(石井方子)
●新報 十八件 ●廣告
●附録 第三回點取文始末(年玉)女學集報

●珊瑚の珠(十五)

○マーテンルーテル云く凡そ道と女とを説教する者を攻撃するが如き人は到底現世に成功せざるもの也蓋し婦女は子孫の源にして家族及邦國を維持す故に婦女を輕蔑する所の人は即ち神と人類とを共に輕蔑するもの也

○ナポレオンボナパート云く婦人の地位、教育、及び心術を尤よく證明するは其人の品質温和なりや否や其人の希望平和を希ふや否やを吟味するに若かず

○清潔なる男女間の交際は人生の至樂なり須くパウラとゼロームの如くなるべしカウンテスマチルダとヒルデブランドの如くなるべしビットリアコロンナとマイッケールアンゲローの如くなるべしハンナモアとジョンソンの如くなるべし而して後ち堂々たる丈夫あり而して後ち温雅たる佳人あるなり

恭賀新禧

We wish our friends a happy New Year.

女學雜誌社 巖本善治

Y. H. Iwamoto.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾六號　明治二十年一月五日

●社說

○明治二十年を迎ふ

今上皇帝即位二十年の元旦女學雜誌社々員謹で　聖壽の万歳を奉賀し且つ斯道の盛運を祝して以て吾同志の讀者諸君に新年の賀を呈す熟ら惟みるに世未だ開けず時尚ほ太平ならざるに當ては戰鬪暴虐しきりに行れて弱つねに强の肉となる如此き世代に於ては女權の伸張到底望むべきにあらず婦女は或は負荷の動物となり或は耕作の勞夫となり或は玩弄の器具となり或は產兒の方便となる男女同等の榮、家房和樂の喜、蓋し夢にだも望想すべからざる也惟夫れ天下明に治て世海太平の恩波に浴し四民權を均うして上下相ひ喜樂すべき世代と爲て初て女權の伸張を見るを得るなり而て今や吾國女流の地位實に此に至れり此れ紀元以降最始の盛運にして女流の幸福古來未だ如此はあらざる也吾社諸君と共に此の聖時に遭遇す負ふ所の任實に重大なるを覺ゆ前途の理想甚だ遙かにして進歩尚ほ意に滿たずと雖も着々業を張て敢て此に當らんとを望む故に新年の初號に於て少か感を記し以て祝辭に代と云爾

○女權擴張の遠計

昔し戰國の世尾州愛知に英雄あり之を豐太閤と云ふ身土民の子にして教育遺傳なし先づ小僧となり奴となり足輕となり下卒となり番人となり奉行となり累進して諸侯となり終に天下の權を掌握して六十餘州を總括す吾人其傳を讀むに權謀術策至らざるなく詐僞猾計殆んど其誇る所となる故に一時の偉業燦として人を眩するに足ると雖も身死して孤を托するの人なく天下忽ちにして德川氏の有に歸す其業を傳へて千古に示す者はたゞ彼の大佛あるのみ故に吾人をして其生涯を評せしめば恰も是れ岩石の時に臨んで清泉を吐出し暫くにして直ちに止みたるが如し遺憾限なしと雖も其由縁する所を思ふ時は此れ素と當然の數と云ふべし。然るに當時別に一豪傑あり之を家康と云ふ身累代の德を遺傳して下に敢死の臣あり初め國の質と爲て早く辱を他國に受るも一旦國を嗣で身を生存競爭の地に置てより戰ふに必ず正々の陣を張り攻るに必ず堂々の軍を起す故に取るべきの利必しも之を取らず受べきの權必しも之を受けず密かに天下の大勢を卜して着々進行し内に臣下を服し外に天下の心を收め遂に滿天下の輿望に副ふて漸く六十餘州の權を握る而して一度之を握れば亦離たず計畫治策高く建て亦動かず十有五世之を承傳して德川の流たゞ西洋文明の爲に塞がる此れ素と時勢の止を得ざるに出る者と雖も大凡そ覇府の政治にして未如此くよく整備したるはあらざる也故に吾人をして家康の一生を評せしむれば恰も是れ大河の洋々として汎流し途に數千の小川を合して終に河海に入るが如し之を豐太閤に比して更に一等の高きを覺ゆると云ふ者蓋したゞ一私言にあらざる也

思に今の世に立て女權の擴張を希圖する者は須らく家康の如くなるべし決して豐太閤の轍を踏む可らざる也先づ束髮となり洋服となり靴となり帽となり鹿鳴館の舞踏となり飛鳥山の乘馬となり交際會となり談話會となり洋語洋食洋風の人となりて則ち婦女の權八十餘州にあまねしとするか蓋し是れ臨時の飛泉暫くにして止むべきもの也眞正に女權を張て其進歩を向後の永生に續かしめんと欲せばこれ未だ可ならず先づ其馬を射ざる可らず先ず其百年の計を爲さゞる可らず先づ其基礎を一變せざる可らざる也

蓋し我國の女權如此く卑汚なりし者は一に時勢の運未だ我國に至らざりしに由る、二に婦人の品格甚だ下等なりしに由る、三に男子の好尚甚だ卑劣なりしに由る而て今や時勢は既に女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

權の擴張を許し且つ婦人の品質を高尙にすべき方法亦尠らずたゞ彼の男子の好尙を一變して之に女權を輕蔑するの習慣を全除せしむるの一事に至りては其策尙未だ行れず鼎足一を失て立たざるが如く改良の方如此んば成功の望甚だ遲かるべきなり抑も彼の時勢の變化と女流の進歩とは固より男子をして昔日の舊弊を去らしむるに効あるべしと雖も然れ共男子をして早く女流を輕蔑するの習念を除かしめずんば女流の發達望む可らず時勢の進行亦容易にあらざる也

諺に云く一年の計を爲す者は穀を種ゆべし十年の計を爲す者は樹を藝ゆべし彼の百年の計を爲さんとせば人を植るに若かずと吾人女權擴張の遠計を爲さんと欲する者は望む所ろ一十年の間にあらずして實は百年の後にあり故に之を現今に生存する天保年代の老人に要めずして之を專ら明治以后の少年に要す於此乎女權擴張の遠計は小學女敎員を增加するにあるとを信ずるもの也。抑も女子の性質の小學敎員たるに適當せるとは最早や論ずるを要せず蓋し內外人の普く承知する所ならん其從順なる其忍耐に強き其注意の周到なる其保護の深切なる等は皆兒童を養育するに尤も適切したる性質にして男子の遠く及ばざる所なりとす加ふるに當今女子に職業を與へて之に產を授るの必要を感ずるの時に當り裁縫、縫箔、其他諸種の手工及び電信、郵便、計算等の雜技もとより女子に適當したる職業なるべしと雖も其尤も高尙にして品格を高うするに宜しく而も其給料の相應に高くして生計を安んずるに足るものは亦た小學の敎員たるにありとす故に此兩點よりして觀察するも女子を小學の敎員とするは非常の利益ある者なりと雖も吾人が今新に之を玆に論ずるものは即ちこの事の能く女權擴張の遠計たるが故なり

歐洲に封建の盛んなるや一種の正氣あり名てシバルリーと云ふ當時の士人皆な任俠の事を尊び柔を助け剛を挫ぐを以て勇となす故に其婦人女子を敬愛するの太甚しき古今に例なく少壯の人若し女流を保護して難に死せば國民擧つて之を榮とするに至れり詩客が所云る婦人の唐虞なるものは即ち當代なり而して吾人此風習の因て來る所を考ふるに其由緣もとより一にあらず然れどもかの幼にして婦女の手に養育を受け之と進退起居を共にして其傍に弓馬擊劍の指南を蒙り不知不識の間に優和温雅の風習を得たるの一事は蓋し之が一箇の大元因として見るべきもの也。因て思ふに今の小學子弟をして悉く女敎師の下に敎育を受けしめば假令ひシバルリーの風再び我國

に現出するに至らずと雖も歐米に行るゝ男女同等の風を起し來らんは決して難きにあらざるべし蓋し糟糠の妻は堂を下さず竹馬の友は辱を同ずべし幼にして句讀の敎授を蒙りたるの師匠ハ一生之を記臆して感謝の念を斷たざると吾も人も共に經驗する所の習慣なり故に若し子弟幼にして女流を敎師とせバ長じて男尊女卑の風習を再演せんと欲するも心自ら肯てする能はず一生女流を敬愛して文明のシバルリー不識の間に成らん故に之を女權擴張の方法中かの馬を射て將を落し基礎を轉じて大厦を動かすの遠計とはする也

○社告三則

第三回點取文日本婦人授産策の答文中甲乙丙の三點を受る者は左の四君也故に本號以下に其文を附錄し且各定則の報賞を寄送す

(甲點)　吉岡福藏君　(乙點)　雨宮たに君
(丙點)　桑ふで君　(同二)　清水繁三君

○第四回點取文題として(日本婦人歎)を揭ぐ右に對する答文の寄送は來る三月十日を以て期限とす其他の手續は廣告欄内を見るべし

○本號以降女學雜誌の出版を毎週に一回と改め土曜日を以て發行日と爲す

● 叢話

○遊樂の事

新玉の年立かへりて家々に喜樂の色見ゆ定めて此頃はくさぐさのなぐさみありて女流には歌牌遊の樂も盛んなるとあるべし此際遊樂の事につきて多少の愚考を述るは甚だ相應したる緣ならんか偖ても西洋人と日本人とを比較して我邦人の及ばざる者固より少からずと雖も日常の事に付て之を云ハヾ西洋人が常に餘暇あるやう見えて事を遂るの多きと我邦人が斷えず忙ハしきやうに見えて而も事を爲すの甚だ少きとの一事は吾人が實驗上尤も遺憾とする所の相違なり去れバ西洋人は何如なる繁忙の身分なりとも一週間に一日の休息なきは殆んど稀れなり一日に二時間餘の休息なきは亦殆んど稀れなり食事後は庭前に細君とクロッケーを戰ハし宵夜眠るの前房内に琴を彈じ冬夜の爐邊に童兒と談笑し三回の食卓ハ家族一同に和樂する如きは西洋人の家々に行ハるゝ一般の風習なり然るに我邦人は一年三百六十餘日營々として虚日なし朝に夙く起て茶漬も倘忙ハしく終日其業に奔走關係して晝飯の味だも覺らず而も夜晩く業を終りて家族前後に就眠し一日の內父子兄弟夫婦相集て談笑和樂する程の餘暇ハあらざる也西洋人の暇ハ

ること彼の如く我邦人の忙しきこと此の如くして而も事業の成る
は彼に多くして此に少しと云はゞ事理甚だ奇怪なるが如くな
れども抑も此れ其由縁あることなり蓋し西洋人はよく勉勵して
よく遊ぶ其勉勵するや寸毫だも余念なし故に一二時間にして
かの怠慢たる人の四五時間にだも相應ずべき事業を爲すべし
而して飜然其事を止め談笑喜樂して亦た余念なし故に其再び
事を執るに當てハ精神爽快にして勉勵の力新に加はりたるが
如く覺ゆることあり然るに我邦人は勉勵の間に怠慢の氣象を混
じて勞逸の區別判然せず故に一木を削る間に煙管口頭にあり
一紙未だ認め了せずして早く茶を喫するなど其不規則なること
云ふ可らず故に終日其業を營むとも尙ほ十分の事を終るに足
らず事終らざるが故に營々勤續して身躰いよ〳〵嫌厭を覺え
數々煙茶を喫していよ〳〵事を遂ぐるを遲くす習慣の相違す
る所その原はたゞ髮を容るゝの心得違より起ると雖も而も其
決果する所は實に莫大の懸隔となることなり
之を以て西洋人は遊樂を以て勉勵に欠くべからざるものとな
し邦人は遊樂を以て怠惰の証徵ありと心得眞に天地の相違と
云ふべし昔し報德先生の農民を管するとき一人の男あり先生
巡見の目前に於て汗を流し叱々耕鋤す人之をすゝめて賞典を
乞ふとき先生の云く彼若し一日如此して勉勞せバ立所に死す
べし余が目前に於て汗を流すものは則ち其餘に怠慢するの証
ありと申したる一佳話あり是れ以て人の斷えず勉勞すること能
はざるの理を解くに足るべし抑休息と云へる者を十餘時間に
割りあてゝ之を仕事の内に混じ彼の勉勞の間に逸眠を交ること
云ふ極めて不規則なる處置をもて滿足せんものは知らず苟く
も西洋人の如く勞逸を區別してよく勉めよく遊び以て繁忙の
間に綽々の餘暇を備へんと欲するものは必ずや彼の遊樂なる
ものを尊重せざる可らざる也
此樣に見來れば遊樂と云へるものは亦是れ一種の仕事にして
晝に必ず夜あるが如く吾人が到底爲さずして止むべきものに
はあらざるべし故に吾人は我邦人が日々週々の間に遊樂の時
日を定めてよく其事業を區分し且つ以てよく其身躰を保護あ
らんことを勸告すると共に吾女流に對しては特に強く之を勸め
參らするなり朝夕の起臥三度の食事の仕度日々同樣の手續に
して少しだも變化なき婦女子の身分には特に時々の遊樂時間
ある者ありて其精神を爽快にし其氣象を活潑にして以て心志
を引立つるやうの方便あらんは尤も至當の事なるべし
然れど遊樂を以て怠慢と打混じては相成る可らず遊樂の主意

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とする所は只だ身躰の疲勞を休めて活潑の元氣を回復するにあり此故に遊樂に行ふ所のたのしみも亦此目的に副ふを大切とす西洋にて女流の遊樂には將碁、躰操、乘馬、槽舟、水浴、氷すべり、舞踏、ピクニック、捜索、觀劇、クロッケー、カルタ、會談等數多の種類あり此中亦事の清潔なると否らざるとに由りて行ふに可なると不可なるとは固より之れあれども要するに皆な彼の遊樂の主意に副ひて而も德義上に差支なき者は宜しく之を行ふべきなり今や春初の佳宴百人一首の源平ならそひも亦多く行るゝ所ならん歟是れ女遊中には相應に可なる者と雖ども夜深けて勝敗の復讐に陣を收めず倘は雪月花の奇策に膽を寒からしむるなんどは是れ既に遊樂を以て反て身躰精神を損するもの也遊樂の主意とする所豈に此に在らん乎哉

INTENSITY OF A MOTHER'S LOVE.

An Infant when it gazes on a light,
A Child the moment when it drains the breast,
A Devote when soars the host in sight,
An Arab with a stranger for a guest,
A Sailor when the prize has struck in fight,
A Miser filling him most hoarded chest,
Feel rapture; but not such true joy are reaping
As they who watch o'er what they love which sleeping.

BYRON.

●論說

○加藤弘之君の講演(男尊女卑の是非得失)

筆記(前號のつゞき)

ところが一人のものになッて來ると壓制がひどくなるに違ひない。そこで他の部落から奪ッて來たり買ふて來たりした時分には若し自由にしておくと逃げられたり他の人から奪はれたりするから充分に束縛しなければならない。丁度山からとッて來たケダモノを逃さぬ樣にすると同樣に威を示し威力を以て服從させなければならない。其れで丁度カゴの中に居る鳥が仕舞にはカゴから出しても逃げぬ樣になると同じにたゞ夫の言ふ通りを聞くといふ習慣になッてしまふ。其の樣なアンバイにしていッたに違ひない。さうしていかねば迚もいかなんだに違ひ無い。其の時分には女を牛馬や其の外のケダモノなどと同じに思ッて居たるに違ひ無い。さういふ風習をつけて先の習慣といふものは段々に無くなッて唯々諾々として夫の命に從ふといふことに(數百千年の間に)なッて來たのに違ひ無い。其の上に其の時分の宗敎や道德で男に對して利屈を言ッてはならぬといふことをさとし男尊女卑が正しいものだといふ樣になッて來た。決して男女が權利を同しうするものでは無い。天然の道だときまッた上に宗敎や道德で其れをしめて來た。さうなると男ばかりで無く女みづからも益々男尊女卑の風俗を盛んにすることを助けて來た。さういふことからして男尊女卑が當然の倫理に適ふ樣になッて來たに違ひ無い。

さう說いて見ると男にはいゝ樣だが女には惡い樣に思はれる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が開化に進む段落ハ是非ともからいふものが無ければならない。其れから此の人間にファミリー印ち眷族といふものが出來で來たといふものハ全く男尊女卑の習慣が出來たから出來たのだ。其れまでハ子も一社會の子であッたが男が女を私有する樣になッたから眷族といふものが出來て來た。そこで眷族が出來るといふには男が女を壓制して女ハ男に從ふものといふ癖をつけたからさうなッた。其れで進化といふものハ動物でも植物でもさうだが簡單なるものから繁雜なるものになるのが進化の次第である。簡單の動物からイロイロな器械の具はッたものが出來、しまひには人間の樣な分業の出來たカラダが出來社會も初めはヒトカタマリであッたが其れから眷族が出來る樣になッて來た。其れが出來て來てから子も眷族についたものとなり財産も眷族についたものとなッて來た。簡單から分業が出來て來たのだ。故に夫婦が出來眷屬が出來たのハ分業の初歩です。其れが男が壓制したから出來たので初めから男女同權なら出來やしない。全くカゴの中へ入れる樣になッたから眷族といふものが出來て來たに違ひ無い。して見るとドウしても此の段階でハ男尊女卑が道德倫理に適ッて居ッたに違ひ無い。併しこゝにチョイと言はなければならぬことがあるが夫婦が出來て眷族が出來たといふのでハ無い。夫婦が出來た時分にハまだ今の樣な眷族といふ樣なものは無かッた。初めは家のスヂといふものハ母親の統をつぐことになッて居た。其れハ今の野蠻の社會にイクラもあることだが初めが共同配偶であれば素より父と子といふものハ緣が無くてたゞ生んだ人だけが分るからである。其れが段々に進んで來て夫婦が出來父母が出來子が出來て一つの眷族になッたといふことである。

夫婦の眷族が起ッて來て其れで社會が進んだが其れからまた一個人といふものが起ることになッて來た。これハ歐羅巴で無ければ言へぬ樣なもので半開の人民でハ父が眷族の主で其の妻と子といふものハ夫即ち父に屬したもので獨立の一個人で無い。即ち本當の一個人といふものハ夫兼父であッて子や妻ハ夫に屬したものである。然るに歐羅巴の樣な所では夫兼父ばかりで無く妻と子といふものも既に一個人である。尤も妻も子も一個人であるとは言へ多少父の權力に從はなければならぬが社會に直接に屬して居る財産も其の外の權利も亭主兼夫にばかり屬するもので無い。其れがあの位開けて來ると一個人にまた分派が出來て來た。其れハ眷族の出來たのち一個人の出來るまでの階梯になるのだから之を履まずにハ出來やしない。其れで男尊女卑といふことが其の時分に惡いといふことハ出來ない。男尊女卑があッたから一個人といふものが出來たのだ。自由であッた女を夫に從はせる樣になッて眷族が起る樣になッたので其の眷族が起ッて來たのは一個人になる本だ。其れハ今の歐羅巴の開化になッてソコへ至ッたのだ。其の時には惡いとハ言はない。其れだから王や政府が壓制したのや奴隷を人民が使ッたのは開けた今日でハ惡い樣だが其の時分にハ惡くハ無かッた。男尊女卑も今日から言ッてはいかぬが其の時分には必要であッたに違ひ無い。然るところが今までの宗教や哲學の方でハ先刻も言ッた通り道德や倫理といふものを一つのきまッたものと見て儒道でハ孔子の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言ッたことと耶蘇敎でハ耶蘇の言つたことを道德倫理であると思ひまた法律家ハ法理は天然法に適つていかなければならぬといふが道德でも法律でもソンナことはありやーしない。これが本當といふのハ開けたことを定規に言つて居るので今から見て惡い樣でも其れが無ければ開化に至らないのだ。

併しながら男尊女卑は其の時分には必要であッたが其れから進むと必要でならざるのみならず有害ともなッて來た。冬ハ餘計に着物を着なければならぬし夏は其れでハいけぬが夏でも冬でも同じ着物を着なければならぬといふ樣な議論を立てゝハいけない。さうすれバ男尊女卑は今までは入り用であッたが今ではモウ入用で無い。ダイブ暑くなッても冬の着物を着て居るのと同じで既に變へなくてハならぬ。支那流でゆくと七去三從の規則も行はれて居るし法律の上でも女の權を保護するハ男よりは薄いものになッて居るがこれ等は改めねばならぬことである。

今の回々敎の國や孔孟主義の行はれる國では女ハヒカゲモノとなッて他人に接せぬことになッて居るがこれには二つの理由がある。第一にハ奪ッて來たり買ッて來たりしたもので男と女が互に情があッて夫婦になッたもので無いから逃げられぬ樣又奪はれぬ樣嚴重に隱さなければならない。第二には女は社會の共有であるからウッカリ出すことが出來ない。故に成るたけホカの男に接することの出來ぬ樣にしまた外へ出るにもツレダッことを避けなければならない。ツマリどこまでも表の緣を遠くする樣に見せなければならないといふ樣になッて來た。

（未完）

●佳傳

○マダム、デ、スタルの傳

一婦人にして其膽力はよくナポレヲンボナパートの威を挫ぎ筆は古今獨歩のコリンネとなり辨はボルク、ヴルポールの名士を凌ぎ半生を四方に漂流して遙かに故國の自由を訴へ至る處ろ四民の歡呼を博して一男子ビクトルユゴを先づ十數年の昔に現出したるは佛蘭西の女傑マダム、デ、スタルなり

スタル幼名をアンネ、ルイサ、ゲルマインと云ふ西曆一千七百六十六年四月廿二日佛都パリーに生る母はス井ッツルランド國ベルンの僧カーナヨッドの娘にしてスーサンと云へり性質嚴格にして信仰ことに熱つければ其兒を育つるの方も亦た常に嚴肅なりき父はゼネバの銀行員にしてネッケルと云ふ心大きやにして面白き質にてありければ其兒を敎ゆるの躰は自ら母とは異りけりスタルはかゝる兩親の膝下に居て双方の愛撫を蒙りたれは心の發育も亦自らに中庸を得たりしとあるべしスタルの尙ほ幼き時サードと云へる叔父ネッケルの一家に趣き室に入りたるに彼の母は恰も室を出んとする時にて在りき親しきなかなれバ厭慮なく入りて見るにスタルは慣れ氣に立ちながら眼に淚をうるませたり此はまた母君よ叱られたるに

やわらんと悟りて近う居寄りゲルマイン（スタイルの幼名）よ憂ひ玉ふな父上が今直ちに御慰めあるべし叱られたるの償ひには足り申さんと云へるにスタルは急かに涙をぬぐひて左樣です父は私の現在の幸福を思ひ母は未來の吾身を心配して呉れますればと答へたりとぞ此一事によりて彼の父母の氣象の大に異れるを見るが上にスタルが幼くして既に毅然たる性根を備へたりし趣を見るべし

斯てスタルは幼きうちより早く才發けたればグリム、トーマス、レーナル、ギッボン、マルモンテル、など云へる當時著名の人々は之を相手にして物語りなどするを此上なき樂とはせり又早くより數多の書を讀み特に小說院本等をも好みて折々は紙もて皇女皇の形をつくり之を舞臺に登せて演劇のまね事を試みたることもありけり又十一才の時すでに時風にならひて數多の人の肖像を集め之に贊をつくり十五才の時は或有名の書を抄出して之に註解を附したることなどありけり（未完）

○ゆりか物語

月の舍しのぶ　錄

今は昔し慶應の末なるらん世追々に騒がしうなりて遠近に放論横議する書生多くありぬ况してや西洋の文物を蟹行の書によりて讀得たるもの又は長崎開港の地に自ら外國人と交を接したらん者は皆よく時勢の變遷を察して連りに天下の政を議し身を以て國の犧牲とならんなど慷慨するもののみにてぞありき此時崎陽のある邊に世を忍ぶ隱士あり夙に歐米の文明を慕ひて密かに彼地の書籍を買求め多年刻苦して之を讀み窮めたれば見識自ら世の人と異りて非常の議論も少からず若し當時の志士と交を結びたらんにはアッパレ一方の盟主と爲りて時勢の梶を動かしたる績もありけんかし然れど中年の比より癈疾となりて立居も自由ならず後には始終蓐の上に座して胸に三分の畧を蓄ふるのみにてあれば自然世と隔りてまた世と交らず枕頭に置えさしたる小の机に倚りかゝりて只だ一枝に無限の思を走らするを以て切てものなぐさめとはしたり去れば家に養ひ置く一人の書生は兼て見所ありとして手近く招きたる俊才なれば朝夕傍ら侍らして惜みなく己が才學を傳へ折々は口づから時勢を評論して戒しむることもありけり語るに亦一人の娘ありて才色双ら美なり幼うして母を失ひ今は繼母の膝下に居て朝夕身不自由の實父に仕るものから心自ら優になりて淑德佳人の質あり之もまた傍に侍りて父が書生に敎へ玉ふ事由を聽き又は父より直ちに和洋の書を學び得て才學なかくに發らけたれど彼の優なる心もて人に現はすとなどなか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りけり父は兩人ともに其心に適ひたりとて之を愛すると斜ならずさすがは西洋の風俗を書の上にて承知したらん人の心自らに開けて時には之に男女の心得など說き聞かす折もありて温太もゆりかも能く聽き玉へ西洋の夫婦は我國の男女などがトテも想像し得ざる高尙なる間柄の者でたゞ共與に國家の事業を行ふと云ふ覺悟で滿ち充ちて居るやうに見へるそれ故夫婦の相愛し相助くるとも非常にて中々我國人などよは夢にも見る可らざる美な所がある既に温太が昨日讀んだ英國史のかの改革の章で劔を提げて戰場に慷慨したあのハムプデンの如き勇士にしても戰破れ傷を被りて將に倒れんとするとき僅かに馬を乘り出して妻の住居る一方を打見やり遙かに慕はしう詠め乍ら打伏したと云ふとぞよ去れば西洋の妻たる者の覺悟は亦別樣にてつね〴〵夫を勵し夫の憂を分ちて心限り之を愛し仕まつるものジヤ例へば我邦の夫が若し何事をか心配してゐらんには妻は一層憂に沈みて顏を青くし夫が事に慟ずる時は妻は亦之よりも強く驚きて只夫のまに〳〵に變はるものであれど西洋の妻は夫が悲めば琴を彈じて之を慰め夫が物に驚く時は特更に之を靜め申すなど余程高尙なる間柄のやうに見へる」

など物語りて親く雙方の心得を示したり然に母は性質少しく曲れるが上に後配の常とて心自らに僻み勝にて兩人の仲睦じうあらんは既に心にくし况て居並て父の親き言葉を受るとなどゐらんには大方は怫として有るまじき振舞をも爲しけり然れど父は永年の癈疾に人々を煩はすことを思ひて何事も忍び勝なるに况して西洋の風俗を子供等に誇り聽かする身の口やかましう言はんは心に厭はれて只だ爲すがまゝに妻の氣儘を容したり

或時父は例の如く兩人を傍に召び近づけて常ならず物靜かに見へたるが余近來心地甚だ宜しからず最早露命のつゞかんとも久しからずと思へば汝等兩人に申殘すとあり温太は十二歲の時より我手に養ひたれば今茲十八歲の少年となりてもをさ〳〵吾子のやうに思はれて心の愛はゆりかに變はらず余なからんのちはゆりかを妹とも思へ若し倘ほ意氣相投合せば妹脊の約を結ぶも可なり其は一に汝等二人の心に任ず兎ても角ても末永う睦み合ひて敎へ傳へたる才學を國家の御役に立て切ては父が無用に癈死する遺憾を償ひ吳れよなど申す座敷の內いとしめりて二人の感も深ければ母は例の如く伏間でしに聲たかく　ゆりやなぜ藥を取りに來ませんかェ

○理想佳人傳

理想とは人の望の寫眞なり凡そ人生れて既に心あらんには何れか望む所あらざらむ或は學者たらんと希ふ者あり或は富人たらんと願ふ者あり人既に斯る希願あらんには先づ學者たり富人たるの樂と樣姿とを望欲の心中に寫して朝夕之を眺めくらし一日も早う此に達り着かんとは思ひ勉るなり抑も斯る寫眞が斷えず心の眼に寫りて未だ遂げざるの中に既に想像の愉快を得さすればこそ茲に辛苦艱難を忍びて其志を成さんとの奮發も起るなれ去れば彼の書生が志若し成らずんば死しても還らず王侯將相豈に種あらんやなど悲歌して心に望み起す其目的なるものは卽ち書生の理想なり民權家が時の政治に慷慨して昔しは民人自由ありき吾等が畢生の任は此政躰を改良して復古の共和國を得るに在りなど申す其望む所は卽ち民權家の理想なり故に民權家の奔走拮据する書生の螢雪に苦學する一に皆それ〲の理想に達せんと欲するに因るなり其他男子には男子の理想あり婦女は亦た婦女たるの理想あり老人は極樂の有難きを理想として少年は榮華のさかえを理想とす凡そ心あらんものにて孰れか一個の理想なきものかあらん去れば或る學者は人と禽獸との相違は一に此念の有無によりて明なりと申せし程なり然るに此理想の高きと卑きとに依りて事の成るに高下あり又理想を望むの確かなると否らざるとによりて志の成るに淺深あるなり去れば理想の何如によりて一國の開化に遲速を生じ一人の立身には榮辱の差を來す其の關はるところ太甚だ大なる者あり

此故に凡そ物事の改良進歩を圖らんとせば先づ所謂る理想なるものを定るを要す維新の改革に當りては柱石の臣十數人各自由の政躰を理想としたればこそ斯る明治の御代ともなりけれ今日の開化も亦た數多の先覺者が西洋の文明を慕ひ之を理想として日夜に先導したればこそ遂に此頃の地位にも至りしなれ去れば今ま女流の改良を圖りて我國の姉妹を此上に導き行かんと思ふものハ抑も之を何如やうの地に達らしめんとは希ふや先づ其望む所の理想を定ると大切ならん特に我國の女風は東洋の陋風に染り卑屈なると限なしとて一日も早う之を除き去らなんと希ふものは去らば之を改めて何如樣の婦女とは爲さんと欲する其の理想する所の佳人は抑もや何如なる佳人ぞと問はんに若し漠然として答ふる所なくんバ數多の女流ハ果た何を望みてか其風俗を改良すべき恰かも是れ港を示さずして船を押し出さするが如し飄〻として高天原に飛び行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んずるものならでは迷惑至極の案内を得たる者と云ふべし
吾人が本誌に佳傳の欄を設けて時々淑德の婦人を示すものは一にたゞ之を此樣の人の理想と爲さまく欲するが爲めのみ然れど書生の目的は常に其事業よりも高く民權家の企望は大抵其の成就するところに優る凡そ純粹の理想は多くは高尚立派にして中々に世に實在すべき類ひにはあらざることあり此故に吾人は古今の淑德婦人を示めすの傍ら若し古今の文人が作り出したる理想の佳人をも示し出さんには之を見たまふ女流の理想は殊更らに高うなるべしと思へり之を希臘の婦人が美女の像に目なれて佳兒を擧げんとしたるに比すれば吾人の望は敢て徒ら事にはあらざるべし
然らば古人が作り出せる理想の佳人とは抑も何如やうの人をか云ふ之には百千かぎりなく數多なることと雖も先づ其數例を擧ればヘレナ、ポルチア、ポルチチ、ベルモント、パイチラ、イサベルラ、チヘリア、コルデリア、ミランダ、ヘルミチン、ペルヂタ、デスデモナ、イモーゼン、カザリン、ヂウリエットの類ひは所云るシエクスピアの理想佳人なり。ナタリア、フエーアセイントの類ひは所云るゲーテの理想佳人なり。我國に於て之を云はゞ馬琴の佳人は濱路、白縫、駒姫の流にして春水の理想する所は仇吉、梅吉の仲間ならん倘近く之を云はゞ矢野君の理想佳人は經國美談に現はれて齊武の愛國者二人の妻となり東海散士の理想佳人は奇遇篇に出で、香蘭幽蘭となり末廣君は之に阿春の名を冠らせ春の舍主人は之を阿雪と名けたり皆これ此の人々の理想し玉ふ所ならん歟吾人之より東西の詩人文客の著作中に斯かる佳人の傳紀を抄出し少さか女流の理想に備ふるもし以て心中の望念を化粧し玉ふ便りとならば幸甚と云ふべし

○歐陽修が母の事

歐陽永叔が母をば鄭夫人とぞ申ける贈崇國公早く死して歐陽修わづかに四歳なり鄭夫人やもめにして而も家まづしかりけり母すでに節を守り子に學文をいたさせ夜は文字をならはせ常に涙を流して子に語りけるは父は廉直の人にて人をあはれみ物を施し子孫の絶ざらんことを思ひそのかみ牢獄の奉行となり科人の書たてを見ては嗚呼いかなる我子や暫しの世を渡らんとて斯る職にあづかるとのあはれさよとて歎き玉ひしが乳母汝を抱きて傍に立けるをかへり見て云くわが命久しからず早く空しくなるべし恨めしきは汝が人と成りけるを見るべからず余死すともよく學をつとめて家を興すべしとこま〴〵と

の玉ひしぞかし自ら之を思ひて貧しき中にも汝を育つるなりと語りてさめ〴〵と泣かれしかば歐陽修きゝて悲しきとに思ひ夜晝つとめて學文を致し進士の官に登り強く皇帝に諫を申せしかば遠國に流されたり母さらに歎く色なくして云く貧しきは固よりの事なり正直にして君をいさむるは父が朝夕思ひし所なり何如で之を憂へとせんと斯て程なく召し反され母を越國太夫人に封ぜらる歐陽修も身まかりければ皇帝なげき玉ひ忠正公と謚し玉ひけるとなり母よく其貞節をまもり父が心をもつて其子に敎へ家を立て名をほどこす事まことに賢なる婦人なるかな

●寄書

○閉校式祝文（東洋英和女學校閉校式場朗讀）

麻布東洋英和女學校本科二年後期生　山尾壽榮子

久方の月日の光りあきらけき我皇御國の榮えもしるきけふのまとゐの樂しみは百鳥の春よあひぬる心地していとゞ嬉しうなんさてこのをしへの庭は若葉しけれる夏の頃所せきとていとひろらかにつくりそへてやまとのからの外國のさま〴〵なる色香たくひなき草どもあまた植られたりかくて花の都の人〻も千里の外のもろ人もをしへかしこき此庭に立つらはやと日に月にたつね來て今は百の上になんなりにけるこそ師の君達のいとまめやかに數ならぬ身をもおぼしたて給ふ深き惠みのしるしとこそいと嬉しう思ひ侍れわきてけふは年のをはりになりぬる別禮のまとゐし給はんとてもろ人打つとひたまへはをしへ子の絲竹しらへの音も響きあひて悦ひうたふもろ聲は空ゆく雲をもとゞめつへう桃櫻の匂ひきそふ春の野に百鳥の囀りかはすことくおほゑて我人ともにけふのまとゐよよそふ花ならねどもゑみさかえかくなから千代もとあかす樂しうなんされはけふのつとひのにきはひには此敎の庭に行末の榮もしられていとたのもしういさとて今日はもろともに立わかれゆくは何となふうらわひしきも立かへり來るあら玉の年の始には學ひのとも〻かすそひて此庭ににきはしう打つとはんとのかぎりなう悦はしうかつは己れ明らけき御代に生出てけふの榮えにあひぬるとの嬉しさのあまりかくなん

かしこしな惠みあまねきこの庭の
榮えは千代にかはらさるらし

○女子の職分（東洋英和女學校閉校式演說大意）

麻布東洋英和女學校本科三年後期生　牛場田鶴子

女子の職分は如何なるものなりやと謂ふ事に就ては世に種々様々の說ありて一樣ならざるが如し古來日本の敎にては女子たる者は專ら家に居て一家の事をのみ勤め從順にして貞操正しく其の夫の意に從ふて何事もこれに逆らはず夫の身の上には多少意に滿たぬ行ありても罵り噪がず一家の内に波亂の立たぬ樣務むるを女子の職分なりとし其外は少しにても世の中に出でゝ交際をなす抔の事は女子の本分にあらずとて堅く之れを禁じたる事なり。此敎は果して女子の職分に相當して間

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

違なきや甚だ受取り難きものと謂はざる可らず成程從順にして貞操正しく家內に波風の立たぬ樣務むるは甚だ大切なる事柄にして女子たる者の忘却すべからざる事なりと雖も其の職分を專ら一家內に限り少しにても世間の事に關係するを禁ずるに至りては大なる間違と謂はざる可らず斯かる狹隘の敎に從ふ時は世の女子たる者其の天稟の才智も德義も之れを用ゆ可き場所なく權利と謂ふものなく義務と申すものなし言はゞ男子に附屬したる厄介物たるに過ぎず今日我國女子の有樣斯くも謂ひ甲斐なき地位に陷りたるものは畢竟此の敎の爲めのみ去れば此の敎は決して女子の職分として信奉すべきものにあらざるなり

又近來の一說には全躰男女と名稱こそ差へ同じく天地間の人類なれば其の爲す所も等しき筈なり男子が官吏たらば女子も官吏たるべし男子が一國參政の議員たらば女子も議員たるべし今日男子のみ世の事業を專らにして女子たる者全く人間外にあるが如きは實に道理に反したる事なりと謂はざる可からず云々と謂へり此說果して女子の職分として信奉すべきや否甚だ疑はしき義と申さゞるべからず、成程男子も人類、女子も人類なれば男子は尊くして女子は卑しき抔の理は萬々之れなく男女同等に位すべきは勿論なれども既に天然に男女と其の性を異にせる以上は其の行爲職分に於ても自ら異なる所なかる可らずと信ず若し強て此の說の如く一切万事男子と同樣に立ち働き男子と權利を爭ひ合ふ樣の事あらば男子は天然男子に相應したる仕事を働らき女子は天然女子に相應したる仕事を働きて互に其の長短を交換し相扶け相助けて双方共に完全なる幸福を受くべき天然の約束に違ふのみか自然此の社會の成立も恐くは覺束なきことに立ち至るべし去れば此の說も亦た信ずるに足らざるなり

右に述べたるが如く第一の日本流の敎も第二の近來の說もともに女子の職分となすに足らず然らば眞の所謂女子の職分は果して如何なるものぞと謂ふに其の夫たる男子を助けて充分の力を添へ子を敎育して之れを導き其他一切家政に屬する萬事の務めを負擔して人の妻たり人の母たるの本分を立つるは申す迄もなく世間の交際を始め身に相應はしき公共の事業にも盡力して社會の開化を輔くる事の如きは眞に今日の世にありて女子の職分とすべき所なり現に西洋文明の國々に於ては女子は一家の事を脩むるの外社會公共の事に關係して勤むる所甚だ多し玆に一二の例を擧ぐれば多數の婦女相會して慈善の擧を企て或は病院を建て又或は學校を興して世の中の貧困にして不幸なる者を救助し又或は戰爭の時に方りて兵卒の負傷したる者を看護し其他苟も社會の開化を輔け幸福を增す事に付き女子の職分として勤むる所甚だ多きが如し世の女子たるもの斯の如くんば決して男子に附屬したる厄介物にあらずして權利もあり義務もあり天稟の才智も德義も之れを用ひ得て更らに遺憾なきのみならず男女天然に生れ得たる互に長短を補足して双方完全の幸福を得る天然の約束にも叶ふことなれば我々女子たるものは偏に斯くあらんことを希望するものなり

却說以上申し述べたる女子の職分なるもの幸に大ひに間違ひなくんば即ち我々女子は既に此の大切なる職分を負ふ身の上

なり此の職分を悉すことは中々容易の事にあらざれば我々が今日まで勉強したるよりも今一層出精して學文を脩め智識を磨き一身の幸福を得たる上幾分か國家に利益を與ふる樣勉めざるべからず

○閉校式祝文（東洋英和女學校閉校式塲朗讀）

麻布東洋英和女學校本科三年前期生　石井芳子

こよひは。この校にて。神のみまつり。かつは。閉校のしき。行なはせらるとて。學びの子たちの。たらちねをはじめ。あまたの人々の。集まりつどひて。こゝに立なみたるか。いともく賑はしうて。廣き校も。入りたつへき處もなきほど。ありけり。さるに。あしたより。ちり計の雲もなく。うらくとはれはたり。夜になりければ。室には。ともし火の。あまたかゝやき。はたりたるなど。さまく面白きさまを。見るにつけても。去年より。ことしと。このをしへのにはに。入りたつ人多くなりて。このみちのさかえの。日に月に。しるくみゆるも。校長をはじめ。其つかさくの君たちの。をしへ給ふことの。ねむころなるは。いふもさらにて。いともたふとき。神の惠み。よれはなるへしおのれも今はこのむれに。加はりつる嬉しさ。身にあまる事になん。されは。この後も。いよくさかえて。大きく廣き校となりて。あまたゝひ。このさかんなるしきをも。行なはれ。はたをさなき人々の學ひのわさも。いやすゝまんことを。ねかふを。けふの祝言にそへて。かくなん

年々の惠の露のしけゝれは
いかにさかえん庭の若艸

●新報

○外國の女學新聞雜誌　弊社は今度女學雜誌を毎週一度の發行と爲し彌よ斯の道に有益なる報告を多く揭載せんと欲するに付て英米にあらゆる女學上の新聞雜誌及び之に關係したる種類をば大抵注文したり因て今より二三ケ月を出でざる内に皆夫々號を追ふて到着すべきに付從來に比しては更に多く本懷を達し得るの望あることなれり則ち斯る新聞雜誌を左に表示し此等を直注文などし玉はんとする讀者の便に供ふ

1. Godey's Lady's book.
2. Harper's Magazine.
3. Harper's Bazar.
4. Harper's Weekly.
5. Ladie's Monthly Review.
6. Our little Men and Women.
7. Woman's journal.
8. Woman's work.
9. The Lady.
10. Queen.
11. British Workwoman.
12. Girl's own paper.
13. Young Ladies journal.

○麻布東洋英和女學校閉校式　去十二月廿三日の夜同校にてクリスマスの祝を兼ねたる閉校式あり社員も招を蒙りて參り合せたるが球燈の飾り校內の摸樣など惣て宜を得尙ほ去夏新築ありたる廣やかの講堂も後には就くべき席なき迄に來客多かりければ盛況まことに賀すべき事にてありき同夜の儀式執行の目錄は左の如し

唱歌(Chorus)　祈禱(Prayer)、聖書朗讀(Scripture Recitation)
歡迎文 Japanese Essay.　松井らく子 I. Matsui
ピヤノ合奏 Piano Duet.　石井方子 K. Ishii / 曲木春子 H. Magaki
同 Piano Duet.　山東田鶴子 T. Santo. / 本田米子 Y. Honda.
英詩諳誦 Recitation.　杉利子 Y. Sugi.
唱歌 Class Singing.　校生連聲
ピヤノ合奏 Piano Duet.　種田道子 M. Taneda. / 仁禮春子 H. Nirei.
同 〃 〃　大久保清子 K. Okubo. / 山中よね子 Y. Yamanaka.
演說(女德新論)Japanese Essay.　若林りう子 R. Wakabayashi.
英詩諳誦 Recitation.　岩本元子 M. Iwamoto.
小鳥の歌 Song.
ピヤノ合奏 Piano Duet.　陸奥精子 S. Mutsu. / 山尾壽榮子 S. Yamao.
演說(女子の職業)Japanese Essay.　牛塲田鶴子 T. Ushiba.
諳誦 Recitation.　隈崎よし子 Y. Kumajaki.
唱歌 Chorus.
祝文 Japanese Essay.　山尾壽榮子 S. Yamao.
クラブ躰操 Club Exercises.
昇級証書授與
音樂(Music Gekkin and Piano).
祝文 Japanese Essay.　石井方子 K. Ishii.
英詩諳誦 Recitation.　橋口ふみ子 F. Hashiguchi.
オルガン獨奏 Organ Salo　大川ちか子 C. Okawa.
ピヤノ合奏 Piano Duet.　種田しげ子 S. Taneda. / 得能あさ子 A. Tokuno.
演說 Japanese Essay.　大久保きよ子 K. Okubo.
對話(英語) Dialogue.　菊地まつ子 M. Kikuchi. / 本田小菊 K. Honda.
唱歌 Class Song.
聖書朗讀 Scripture Recitation.
對話 Dialogue.　山東田鶴子 T. Santo. / 小林妙子 T. Kobayashi.
子もり歌 Cradle Song.
ピヤノ獨奏 Piano Salo.　山尾壽榮子 S. Yamao.
英語諳誦 Class Recitation.

右終りてマグドナルド氏の英語演辭あり後ちカックラン氏の祈禱を以て式を閉ぢたり何れも皆面白く出來たれども特に來客を感ぜしめたるは牛塲田鶴子の演說、山尾壽榮子の祝文、クラブ躰操に十二人の小女がピアノに連れ運動したる樣、橋口ふみ子の英詩諳誦、菊地本田兩子の對話、及び月琴ピアノの合奏などにてありき同校は去十七年十月新設して尙ほ二年を經ざれども今は寄宿生百名通學生も亦た百名にて外國敎師五名內國敎師十二名ありと云ふ其盛運は實に女學の進歩を卜するに足るものなり

○女學校の監督法　文部省にては近來我邦女學校の大いに進歩せしに付ては其の監督法も嚴重にせざるべからずとありて今度公私立女學校監督方法を編成せらるゝ事とあり目下歐米各邦の制規を調査中ありと云ふ

○女學校　大坂川口十六番館の大坂一致女學校は去月廿一日認可を得たれバ本月十日より開校の積あるよし又同校は今度

西區土佐堀通三丁目六番地へ移轉せり。去廿四日府下駿河臺北甲賀町の女子神學校より出火二戸燒失。大坂西區新町の女子手藝學校は裁縫の外、脩身學、算術、禮儀、の三科を加へて敎授する旨同取締木原茂平氏より此頃屆出られたるよし

○高等女學校敎員　文部省第二十一號の省令に同敎員免許規則を發布さる學力品行身躰の試驗に合格するものは何人も同敎員たるを得るとの規則にて來る二月の末に右試驗を執行あるよしあり

○鐵道掛に婦人を用ひんとす　電信局にて技手の妻女を採用する事になりし以來驛遞局にても局員の妻女を使用せんとの議論ありし由なるが此度鐵道局にては改札掛驛丁等に電信局同樣妻女を用らるゝやの噂ありと去る廿四日朝野新聞に見ゆ

○福岡婦人協會　本月十八日同會事務所に於て常集會を開き出席員三十三名にて客員須田辰次郎幼兒習慣の演說其外津田甫守兩氏の演說あり錄事生井みね子の發議にてノルマントン號沈沒事件に付本國人溺死者の遺族へ義捐金を弊社に托して贈與することに決し會頭野村まさ子は東京婦人矯風會より福岡婦人協會へ宛規則を送り越し女德の大基礎と云へる質議をも送り來りたるを披露し午后三時過ぎ散會せし云々福岡日々新聞に見ゆ

○女生徒の躰操　過日初て開校したる松原町の敎斅女小學校は昨日より上級の生徒を躰操せしめたりと十二月十八日の佐賀新聞に見ゆ

○音樂唱歌傳習　大坂東區內各小學校にては今度生徒に音樂唱歌を敎習せしむる事になりしに付各校每に訓導二名宛を選び大坂尋常師範學校に於て右傳習をなさしむべしとの趣を此程東區長より部內の各小學校へ達せられたりと云へり（十二月十七日內外新報）

○神谷千春女史　有名なる同女史は先頃馮雪卿に從ひ臨池丹靑の學を硏究せしが大ゐに悟る所あり此頃山田地方に一の女學塾を創立せんと目下同地に滯在して專ら此事に奔走すると報知のまゝ（十二月十四日作新日報）

○湯屋營業者の御說諭　駿河有渡郡淸水町は港付の地として各湯屋共男女入込みの弊風全く脫せざりしが今回同地分署にては湯屋營業取締藤田太助を召喚の上右男女混合等の不都合無之樣懇ゝ御說諭の上取締人より受書を差出したれば已後入込の弊風を改るならんと十二月廿日の東海曉鐘新報に見ゆ

○名取組製絲場　京都東丸太町なる名取組京都第一製絲場は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先般開業以來蒸溜器械を以て盛んに製絲せり目下は工女八十名ありて數名の製絲女敎師之れを引廻はし毎日午前七時を以て工女其業に就けり聞く所によれば凡そ製絲工女の如きは動もすれば規律亂れ易きものなれども右八十名の工女は先づ順良にして業間規則を守り工業に倦まざる由にて是れは京都女子の工業に適する長所とも云ふべき歟との評なり右八十名の工女中には十餘名は既に製絲術の稍手に入りたるものあれど其の多數は大抵新募にて未だ其の術の手に入らざりしものなれども入場以來追々の勉强にて追々進み目下の處にては右八十名の工女にて平均一日一人の製絲二十匁を得る由なれば一日の製絲總高は百六十匁なり繭は諸方より買取るものにて其の買入方は生絲にして横濱へ輸送して賣れる相庭に基づきて繭の買入直段を定むるが故に姦商などが繭の期節に田舍の繭を見倒して買ふ直段とは餘ほど高價に買取るが故に繭の供給は如何にても持續く見込の由なり又た繭の買入に付入費と云へば眞よ僅かのものにて本年三月大坂に開きたる名取組大坂第一製絲場にて其の繭を他地方より買入方の入費豫算は百圓に付五圓即ち五分とせしに實際四分六厘八毛即ち百圓に付四圓二十八錢の入費にて濟みし由且つ之れも始めての事にて他地方へ人を遣り繭の穿鑿を爲さしめたる等の手數もありたる由にて其の二度目よりは降て三圓七八十錢(百圓に付)の入費にて濟みたる由なり斯る實際の次第なるにより製絲場の如きは大坂京都の如く養蠶地にはあらずとも人口多くして工女を得るに易き地を擇びて之れを設け而かして繭は諸方より買入るゝことと何の造作もなきことなりと云へり（十二月廿五日内外新報）

○ビーチエルストーエ夫人　アンクルトムの小說を以て世に雷名を轟かし後ちリツトルエブハ、トプセー、など云へる種本を演劇に附して彌よ名を高うしたる同夫人は其夫の死せし後は殊の外躰を損じ最早や命も危しなど評し合ひたる由なるが此頃の米國批評週報よは尙ほ健全に居まして恙なき趣を載せたり

○万國婦人禁酒會　の第十三回大會は前號に記したる如く此頃開かれたるとあるが其節會議の末左の一條を論決したるよしあり云く

吾會は淸德の地位は男女共に同一なるとを信ず

○大坂基督敎徒婦人禁酒會　去年九月レビット夫人大坂へ參られたる節大坂基督敎徒婦人禁酒會なるものを設置ありしが

會員九十餘名に至り已に去月十八日には定期會を西區土佐堀の青年會館に於て開會し數名の米國婦人の演說あり畢て本會擴張の事を議し役員の撰擧あり當撰者は會頭に櫻井ちか副會頭に宮川つぐ會計に北みよ書記に杉江たつ氏等にて當日は來會者凡そ百五十餘名ありしよし尙同會の規則は萬國婦人禁酒會の規約を省約して適用ありたる者の如く大抵東京婦人矯風會の規約と相似たり

○岐阜縣の女風　岐阜縣は故長谷部知事よりの禁妓主義にて明治五年娼妓解放以來舊區長等一同の請願もありて妓樓の設置を許されず尙小崎知事に於ても專ら此美志を繼がれ去年來官吏社會には藝妓さへも近つけずと云ふ主義あるにも係らず近來妓樓の設置を請願せんとて奔走する料理店などあり既に願書を差出せりときゝぬ知事には到底許可あるまじと雖も世追々清潔となるの今日更めて斯る事を申出るものあるは尤も慨歎すべきことなりと同地の高嶋武次郞氏より報知あり

○貴婦人洋食會　北白川宮の御息所には舊臘三十日紀尾井町の自邸へ各貴顯の夫人方を招き洋食會を催ふされたる由

○婦人洋服裁縫女學校　京橋區内に於て平島喜平氏が同女學校を設立せんとの計畫ある由は前號に記載せしが同女學校にては平島氏が校長にて幹事は近藤りン子教員兼職長は多年佛國公使館の裁縫方に雇はれ居たる澤田虎松氏等にて別に語學の一科を設け獨逸人ミスワルツを雇入るゝ由又其位置は京橋區山城町四番地のよしなるが本月中旬には開校式を擧行するの手配りありと云ふ

○子供は素足を良とす　ランセット雜誌の報ずる所に據れば子供は素足にして置き足の血脈循環經及び筋肉經を十分に發達せしむると手と同樣ならしむるを良とす誰にても子供の手を常に包んで置くことを主張する者はあるまじ足も手と同樣に包まずに置けば血液を得ること多くして其骨も脈管も皆十分に發育するを得るなり素足で步く子供は其足が時として冷ることあるも之に依て感冒することなし且斯樣な子供は常に足袋を穿き靴を穿つ子供より遙かに壯健なり殊に貧乏人の子供に至つては濡れたる靴濡れたる足袋を穿て居るより跣足の方遙かに良しと羅馬字雜誌に見ゆ

○指示　本號の特別廣告には福岡婦人協會の規則あり就て一覽あるべし●又本號より第三回懸取文始末として日本婦人投產策の答文四篇を追々に附錄すべし●又本號には新年々玉の寸志として女學集表を附したり

女學雜誌社 第三回點取文始末

緒言

本社は明治十八年七月第一回點取文題日本婦人改良論の應答を世上に募り又同十九年五月第二回點取文として日本女子教育策の答文を公衆に仰ぎ共に答案若干を得て點撿附賞し且つ其文章を本誌に附錄したり而後十九年九月更に第三回點取文題日本婦人授産策を廣告し同十月三十一日を期して答文を得たる者凡そ二十一通内女流の手に成る者五通あり則ち點撿審査して甲乙丙の三等を定るに當り彼此較量の末遂に左の四氏の文章を以て之に相當する者と議定したり

（甲）新潟縣西頸城郡糸魚川　吉岡福藏

（乙）東京神田和泉町師範學校得業生　雨宮谷子

（丙）横濱戸部町五丁目百三十番地　桑ふで子

（丙）長崎縣南高來郡島原町百一番地　清水繁三

因て定則の賞を呈し且つ其文章を本號以下の女學雜誌に附錄す

明治二十年一月　女學雜誌社

日本婦人授産策

●甲點　新潟縣西頸城郡糸魚川　吉岡福藏

抑も婦人に産業を授くるの目下緊要にして然も世間に其勢力を有するの問題たるとは言を俟たすして明なる事なりと雖とも今是に應するの方法を求めんとするには我婦人の如何にして斯の如き問題に勢力を得せしむるに至りしものか其原因を探究するは蓋復緊要なる事なるへし夫れ事物の一盛一衰を爲すや皆其原因あるものならざるはなし故に是か救治の策を求むるには先其原因を探りて本末順序を明にするにあり今や此授産策を講するに我婦人か現今の位地に至りし次第を論求するは猶彼醫師の病客を治するに先其發病の原因を探究して而して後始めて藥劑を投すると異なるとなかるへきなり故に我婦人の地位と茲の地位に至りし原因より探究し以て之か救治の策に及ほさんとす偖日本婦人の地位は如何なるものか曰

女子は三界に家なし、妻と疊は新きを良しとす、小人と女子は養ひ難し、婦言は用ゆ可らす、と

右は古來口唱は勿論諸家の著述にも公然書する所にして見る人も亦た以て其當を得たりとなす所なり抑も女子も亦一個の人類ならそや均しく萬物の靈長たるは疑もなき物なるに如斯の悪評を被らすは抑も亦何等の侮辱そ女子も亦何故に斯る侮辱を甘するものそ婦人は果して三界に家なきものか見よ彼禽獸の群を見よ終日空際に飛鳴する諸禽も夕には宿るへき樹木あり野に求食獸畜も亦隱るへきの空あり然るに人類たる婦人にして三界に家なしとせは禽獸にも若すと云はんか又妻と疊

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新きを實とする抔是亦何等の妄言ぞ抑も夫婦ハ異躰同身なる者にして夫ハ外に働き妻ハ内を守り以て塵世を渡るへし夫の外に在るや東西南北皆敵ならざるハなし然も終日此間に奔走し其の敵と往復して憂苦するの情を慰むるものハ妻の深切にあらすして何かあらん斯の如く親密離れざる膠の如き者にして疊其器物と同視せらるゝハ抑も亦何等の侮辱ぞ女子ハ其心果して惡意を包藏するものか小人と同視せらるゝに至てハ復言ふに忍びす而して婦言も亦果して用ふ可らさる者か偕老を契り同穴を誓ふるの婦にして何ぞ夫の爲めに惡言を吐かんや是を思へば婦人の地位ハ恰も怪物の如く然り當時開明の世にありて豈に永く斯の如き惡名を婦人に被すへけんや然りと雖とも是を爲す皆因あり果あり決して其謂はれなき者に非さるなり何をか因と云ふ何を果と云ふか曰く上世佛敎の我邦に傳はるや其說く處外面女菩薩內心女夜叉にあらされハ曰く婦人ハ罪深しと說き孔子の敎の傳るや諸家勉めて是を遵守し以て治道の基礎と爲せり論語に曰く女子と小人ハ養ひ難し曰く婦人の仁なりと是を以て婦人を敎ゆるの道ハ諸家務めて卑屈を主とし或ハ女子に三從を稱へて男子の從僕の如くせんことを勉めたり其後武門の世となりて女子ハ一層其地位を下して只其織系の具となすに至り之を証するに婦人七去の內にも妻に子なけれハ去るべし云々甚しきハ其婦を遣て敵の歡心を買ひ母を質して敵の情を安する等茲に至て女子の價格ハ又無きと一般恰も一箇の器械道具の如く而して女子も亦甘して是を受け男子の命とあれハ水火も辭せす服從するに至れり斯の如きの諸因漸次凝結して果をなし遂に女子ハ男子に依て生を爲すものにして只男子の命之從ひ獨立すると能はざるものと覺悟し次第に其心を增大にして遂に今日の如く一の厄介者となるに至れり由之觀是儒佛其始を過り戰爭其價格を下し封建の制定て只織系を主として敎育を輕ずるの因果なり今や外國の交通頻々にして人智日に進み敎育の道盛なるに連れ女子の敎育も再び世に用らるゝ事となり從て女秀も世に多く中にハ男子を凌駕するの實力あるもの少からすして一旦地に埋れし女子の價格も漸々世に顯はれんとすと雖とも中にハ猶夫の力に依て生を爲すもの多きを以て一朝若し夫に別るゝの不幸に逢ふや裁縫等の手術に依て婦人の資格を完ふする者ハ實に寥々として晨星と一般にして多くハ親戚の厄介となり或ハ婢となり其甚きに至てハ猶身を鬻て禽獸に均しき行を爲すものあるを免れす而して其日常の樣と雖とも夫ハ妾を蓄ふるも其力なりとして婦の啄を容るゝを許さゝるのみならす時に之を許すの跡あり則女大學七去に妾に子あらハ去るに及はすと記す是なり又或ハ花柳に花を折り酒肉に飽くも婦は又之を責るの權なく總て男子の爲す所ハ自由氣儘の風多く而して女子の爲す所を見れハ一生家にありて粗食を味ひ以て夫に從ひ終日苦勞して只夫の鼻息を是れ伺ひ色衰へ氣適ハすして一朝三行半の証書を與へられんことを是れ恐れ恰も婢の如く雇人の如く然り故に糟糠の妻ハ堂を下り昨日の於三今日昇堂する抔ハ往々ある事にして人以て怪とせす而して之か辭を聞けハ曰く家風に合ずの一言ハ一般の有樣にして婦も亦之の一言に抗するの力なきハ歎すへきの至りなり例へハ茲に婢を雇へる者ありとせんに主人一朝其婢の失行を責めて之を放逐し而てし其賃を與へん

特別廣告

福岡婦人協會規則

○緖言

今はむかしとかはり行く世のありさまの驚くはかり進み來て外國のましはりも日ゝ繁き事とはなりぬされはかけまくもかしこき　皇后の宮の御思召にて先比東都に華族女學校を起させ賜ひかたしけなくも士族平民のわかちなく入校を許させ賜ふとかまた外國の婦人にはやくも女の道を知りて國につくせる程も亦しられ侍りぬよりて思ふに女とて只むかしのまゝに家内の事のみとりまかなひてたれりとなし國の爲赤心盡す親夫を輔くる事もうみの子を敎ふる事も辨へす世間のさまも知らずしてはつかしき事ならすや實に女の務は最と重く身分もさらに卑しからぬをよくその道を辨へて自ら地位を高くふして夫を輔け子をおしへて　皇國の爲力をつくさん事はまことに女のつとむべき事にてこれこそその本分といふべけれきのふけふとすき行く月日もまたかへりこぬものなれはこれを思へは忙かはしく又おけかはしくは侍らすやよりて玆にわれまた同志の人ゝ打寄りて談話演説の便りに依り先つ尋常の事柄より次第に講ゝに女の道を求め得て外國の女に耻ぬよふ思ひ起して此會を催せるなりいかに志ある方々よ女のさしすぎおこかましとがめたまはてわれこの事をよみして同し心につとひ來賜はんにはいかにうれしく侍りなんかしこ

明治十九年十二月四日

○福岡婦人協會規則

第一條　本會の目的は女德を修め女風を改良するものとす

第二條　本會ハ福岡婦人協會と名く

第三條　本會ハ當分福岡下名嶋町四十八地に設置す

第四條　本會の會員ハ品行正しき齡十五年以上の女子を以て成立するものとす

第五條　會員ハ互に交際を親密にし情誼を厚ふし諸事質素を主として虛飾を爲さす東京の貴婦人及ひ女子敎育社會と氣脈を通して務めて女事を怠らさるものとす

第六條　會員たらんと欲する者は本會より入會票を請取り之に性名等を記入して差出すものとす

但し入會後轉居するときは其住所を通知し又事故ありて退會せんとするものは會頭の承認を受くるものとす

第七條　會員には會頭より會員の證を付與するものとす

第八條　本會ハ會員中より左の職員を置き會務を整理するものとす

會頭一名　本會一切の事務を監督し會場を支配するものとす

理事二名　會頭を助けて事務を整理し又ハ會頭に代りて會場の取締を爲すものとす

錄事二名　文書器具金錢家屋其他一切の常務を處辨するものとす

會娘一名　會頭以下の命令に服役するものとす

第九條　會頭の任期は一箇年とし毎年大會に於て會員中より投票を以て撰擧し理事錄事ハ會頭之を特撰し會娘ハ理事之を命するものとす

但し投票同數あるときは年長の者を以て之に充つるものとす

第十條　本會には會頭の承認を得て理事錄事又は會員十名以上の請求に由り男女の客員を委囑することを得るものとす

但し會頭の請求は之を理事よ諮詢するものとす

第十一條　客員は本會の利害得失に關し意見を會場に提出するの權を有するものとす

但し客員には會頭より客員の證を贈るものとす

第十二條　本會ハ毎年一月十八日午後四時大會を開き毎月十八日午後四時小會を開くものとす

但し錄事以上の職員及ひ會員十名以上の請求に由り臨時會期を變換し又は臨時大會を開くことを得るものとす

第十三條　大會に於ては會頭より一年間會務の經歷及ひ會計を報告し客員及ひ會員中規則其他の事に就き意見ある者は之を提出して會議を盡くし又は演說討論宴會等を設くるものとす

第十四條　會議の體裁ハ總て普通の會議法よ準するものとす

但し小會に於ては學術研究談話討論演說等を爲し客員又は敎育家を招待して論說を聽くものとす

第十五條　會費は會員一人に付一箇月金拾錢と爲し毎月一度集金者を派して請取らしむるものとす

第十六條　本會ハ臨時會況報知書を印刷して客員及ひ會員に頒つことあるものとす

第十七條　本會に物品又は金員を寄附する者あるときは之を本會記事錄及ひ沿革史に登載し永く其芳志を存し本會の名譽と爲し會頭より特に謝狀を贈るものとす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學書類取次

婦人地球週遊記（一册）英國ブラッセー女著、内田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。

日本之意匠及情交（一册）田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵税六錢。

賢女脩身事蹟（三册）今川肅君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵税十二錢。

ひざもとの教（一册）近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵税四錢。

いへのをしへ（一册）松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵税二錢。

日本婚姻の弊害（一册）大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵税四錢。

看病の心得（一册）笹川純一君著。第卅五號に批評す。定價三十錢。郵税六錢。

演劇改良論私考（一册）外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵税四錢。

社會改良と耶蘇教との關係　同前著。本誌第卅九號に批評そ。定價廿五錢。郵税六錢。

小兒健全示要（一册）岩田文吉君著。本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵税十錢。

女子必讀（一册）進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵税十錢。

朝鮮夫人傳（一册）坪内雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵税十錢。

日本婚姻法論畧（一册）鈴木劵太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵税十錢

日本婦人纂論（一册）井上直女編。本誌第卅八號ゟ批評あり。定價二十六錢。郵税六錢。

（右取次賣捌）

東京京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

女學雜誌社

第三回點取文題

日本婦人歎

右は日本當今の婦女が蒙る數多の束縛、困苦、不自由、等を數へ成るべく實際の儘を文章につゞりたる應答を要するものにて答文は來る三月十日迄に本社に寄送あらんことを乞ふ右日限后に到着するものは乍遺憾點撿の中に收めず且つ答文は審査の上優劣を定め甲乙丙の三點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十册
乙點者	同	二十册
丙點者	同	十册

無代呈上
同
同

女學雜誌

每週一回發兌

女學雜誌は當年より每週一回發兌の事と相定め彌よ女事の報告を迅速に且つ數多く相集め可申候而て每週の土曜日を以て發兌の日と相定め申に附ては一月一日第一土曜日分として發行可致の處年初の休業を兼て之を廢し第二土曜日即ち八日分を其代として今五日に出版致候間次回は第三土曜即ち本月十五日に發行可仕爾後每土曜日には定期を誤らず早朝より配達可致候也

書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とに合せて定價の金員を送附あるへし尤も大抵は其内にて郵送賃を辨じ申すとも雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候（但し女學外の書籍と雖も時宜により右樣の取次可仕候也）

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を圖り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覽の上御相談仕候也

○雜誌切手の事

女學雜誌切手は女學雜誌五册分より以上何册分にても差出候年玉其外の御遺物には至極適當の品と存じ候

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

船越鼎太郎君著
産婦小兒 **攝生法**（新著）一册十八錢郵送税四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き様認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を盡さゞるとを敎へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ると、出産の日期を知る法、妊娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲ませる間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣）新橋日吉町八番地 女學雜誌社

Notice.

ON account of the New Year Holidays commencing in all newspaper Offices in the metropolis on the 29th instant, and the impossibility of obtaining compositors, there will be no issue of the *Tokyo Independent* on January 1st. A double number of twenty-two pages will be published on SATURDAY, JANUARY 8TH.

稟告

東京諸新聞社共本月廿九日ゟ休業致し候且つ植字方を得るとの困難も有之旁々以て東京獨立新聞第五十二號は來る明治廿年一月一日發兌すべき處其次の土曜日則ち一月八日五拾三號と共に二拾二ページと致刊行仕り候へば看客諸君不悪御了承あらんとを伏して祈り候也

十二月二十九日　築地居留地明石町二十番館　東京獨立新聞社

速記叢書 講談演説集

第一册 定價郵税共特別割引拾四錢
第二册 同 拾四錢
第三册 同 七錢

從來我邦の筆記文體は概ね漢文直譯體の論者が言ひたる言葉の證據と爲す能はず又自らか〻る文體の手に成るも演説なと書き得る者ならでは解し能はざるべし然るに講談演説集は速記術を利用して口に言ひたる言語を其儘に筆寫せる演説の寫眞鏡なれば演者が演べたる言葉の證據と爲すを得べく又平易なれば文章を學ひたるとなき者にても一讀して了解しく得るの便あり●時事新報の評 諸大家の演説講談を辭の儘に筆記せしものにて人々辭癖等一々紙上に寫し出されいと面白し日本にては辭と文章とは全く別ものとなり口から發したる辭の儘にては文を成さぬ樣思ひ居れどもこれは畢竟中古より支那文字が侵入し來り言文二岐に分れたるより文章の發達を妨げ言語を其儘寫すとが出來ぬ樣になりたるが故なりかく寫し見れバ日本の辭も立派に文章となり居りて却て漢文句調のものが可笑く聞ゆるなり今後日本の文章も逐々辭の方に近寄るもあらんが此速記法の發達の如きは日本文章の改良には餘程の勢力を有すと云て可ならん●朝野新聞の評 速記法の學生には必要の新書と思はる●讀賣新聞の評 筆記よく整ひて其坐にて其人の講演を聞くと違ふ事なし●繪入朝野新聞の評 總て文躰此右に出るもの少かるべし●やまと新聞の評 恰も其人に接する如く其雄辯妙語は勿論詞癖までも能く寫し出されたり●基督敎新聞の評 演説其儘を寫したると故親しく演場に在るが如く思はれて頗る情味あり後日必ず此法の廣く日本に行はれて四角なる文章に凌駕するに至るへし●

（發賣）東京通三丁目丸善書店　本町三町目瑞穗屋　馬喰町二丁目石川治兵衛　神田淡路町巖々堂
●（取次）東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

教育時論 第六十一號 目次

◎社説○本年中敎育ノ沿革
◎輿論一斑○試驗問題ノ撰擇法○實業敎育ノ困難○北海道敎育餘論◎婚姻早晩論○小學校敎員ト戸長トノ間柄○小學敎員ニ勸賞及年金ヲ附與スルノ意見

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

郵遞局認可

◎論說○敎育時論第五十八號ノ社說ヲ讀ム(ゑひ)㴱我カ敎育ノ眞正ナル獨立ヲ欲セサルヤ(自由所棲齋主人稿)○校外敎授論(和田嘉衞)○改正小學授業ノ方案(山田大助)
◎學術○男尊女卑ノ是非得失(加藤弘之君演述)○雉經松ノ說(高島平三郎)
◎雜記○ゑくじりのくら(おと)英文二節　○行軍の歌(鳥居忱君作)○家庭敎育保育ノ心得
◎傳記○彌爾學術傳
◎內外雜纂○三十餘件
◎廣告○數十件

發兌所　東京下谷練塀町十四番地　開發社

●東京經濟雜誌再減價廣告

每土曜日發兌　東京經濟雜誌

我東京經濟雜誌は財政銀行商業に關する專門の週報にして傍ら政治上文學上其他社會万般の事件を論議報道せる者に有之猶ほ倫敦のエコノミスト雜誌に於ける紐育のバンカース、マガジン雜誌に於けるが如し左れば社會の要件ハ正確誤謬なき者を撰拔して網羅漏らすとなく加ふるに每半季目錄を製して合本に便するが故に就きて索引すれば社會の事件立ろに顯はれ恰も社會の事件を寫眞に取り置くものと申すも敢て誣ひすと信じ申し而して今や我社會の形勢ハ年一年に經濟上及び商業上に歸向仕候へば益々經濟上の機關たるの任を盡し以て江湖愛顧の貴意に酬ひんが爲に昨年十月既に定價を減少候處本年より更に此の如く**定價と引下げ**且躰裁等に於ても大に改良を加へ社員一同一層奮勵從事仕候間益々江湖の愛顧あらんとを希望仕候

◎改正定價○一冊金七錢郵稅共金八錢○十冊前金郵稅共金七十五錢○半年分(二十六冊)同金壹圓八拾貳錢○一年分(五十二冊)同金三圓三拾八錢○但府內外共郵稅申受候事

明治二十年一月

東京々橋區彌左衛門町七番地　經濟雜誌社

定價

一冊。五錢	郵稅。一錢	(但府內無郵稅)
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	(同前)
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會學校等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行	一回	前金拾錢 (廿七字詰)
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は社議の上謝絶す有益なる事物の廣告は無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	巖々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	頁明堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同本郷區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
同三條通東洞院西へ入	クリスチアンボード
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝店
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所　本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

…一層奮勵從事仕候間益
々江湖の愛顧あらんことを希望仕い
◎改正定價○一冊金七錢郵稅共金八錢○十冊前金郵稅共金
七十五錢○半年分(二十六冊)同金壹圓八拾貳錢○一年分
(五十二冊)同金三圓三拾八錢○但府內外共郵稅中受い事

明治二十年一月

東京々橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

大坂…
伊勢國松坂白粉町　伊勢安支店
仙臺國分町五丁目五番地

發行所
本局　東京京橋區日吉町八番地
女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

◎論說○教育時論第五十八號ノ社說ヲ讀ム(ゑひ)猶我カ敎育ノ眞正ナル獨立ヲ欲セサルヤ(自由所棲齋主人稿)○校外敎授論(和田嘉衞)○改正小學授業ノ方案(山田大助)○

◎學術○男尊女卑ノ是非得失(加藤弘之君演述)○雉經松ノ說(高島平三郎)

◎雜記○志くじりのくら(おと)英文二節 ○行軍の歌(鳥居忱君作)○家庭敎育保育ノ心得

◎傳記○彌爾學術傳

◎內外雜纂○三十餘件

◎廣告○數十件

發兌所 東京下谷練塀町十四番地 開發社

●東京經濟雜誌再減價廣告

毎土曜日發兌 東京經濟雜誌

我東京經濟雜誌は財政銀行商業に關する專門の週報にして傍ら政治上文學上其他社會万般の事件を論議報道する者に有之猶ほ倫敦のエコノミスト雜誌に於ける紐育のバンカース、マガジン雜誌に於けるが如し左れば社會の要件ハ正確誤謬なき者を撰拔して網羅漏らすとなく加ふるに毎半季目錄を製して合本に便するが故に就きて索引すれば社會の事件立ろに顯はれ恰も社會の事件を寫眞に取り置くものと申すも敢て誣ひすと信じ申し而して今や我社會の形勢ハ年一年に經濟上及び商業上に歸向仕候へば益々經濟上の機關たるの任を盡し以て江湖愛顧の貴意に酬ひんが爲に昨年十月既に定價を減少候處本年より更に此の如く定價を引下げ且躰裁等に於ても大に改良を加へ社員一同一層奮勵從事仕候間益々江湖の愛顧あらんとを希望仕い

◎改正定價○一冊金七錢郵稅共金八錢○十冊前金郵稅共金七十五錢○半年分(二十六冊)同金壹圓八拾貳錢○一年分(五十二冊)同金三圓三拾八錢○但府內外共郵稅申受い事

明治二十年一月

東京々橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

定價

一冊。五錢	郵稅。一錢	(但府內無郵稅)
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	(同前)
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會學校等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を募するのに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 團々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 頁明堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本鄉區元富士町 盛春堂
同本鄉區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
同三條通東洞院西へ入 クリスチアンボード
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY